



大会名称	GOODYEAR Vitz&86/BRZ Dream Cup 2018
開催日程	2018.12.16
場所	富士スピードウェイ
参加車両	#123 NETZ TOYAMA Racing 86 & VITZ
ドライバー	86 : 松井 孝允・松井 宏太・小原 侑己 VITZ : 高長 泰之・原島 佑太・中村 虎太郎・山口 竜也
参加台数	48 台 (86 : 16 台、VITZ 32 台)
予選順位	86 : 3 位 VITZ : 12 位
決勝順位	86 : 1 位 VITZ : 未出走



毎年恒例となっている富士 6 時間耐久。86 は昨年悲願の優勝を成し遂げ今年は 2 連覇の期待が掛かる。VITZ は「レースをしたい！」と入社してきた新人エンジニア 2 名を抜擢し、初レースとなるドライバーを含むメンバーで挑む。86・VITZ 共に 10 月のシリーズ最終戦を終えて連日マシン作りに励み、11 月は週末のほとんどを富士スピードウェイで過ごすといった過酷な状況下を乗り越えて挑んだ戦いだった。決勝の時は 12 月 16 日早朝 8 時。予選がスタート。86 : A ドライバー松井孝允がアタックを開始する。1 アタックのみの作戦で、絶対に失敗をしていけない状況下の中「2' 06.116」をマークし 3 位につける。高長泰之がアタックを開始。「2' 19.851」の好タイムを出し予選上位に浮上する。しかし、運命の分かれはここで起きてしまった。



#123VITZ がアタックを終了する直前、すぐ後ろを走行する後続車両が予選アタックを開始。ストレート計測ラインを過ぎた辺りで #123VITZ を追い越そうとした後続車両がコントロールを失いハーフスピンする。そのまま #123VITZ の前方へ回り込むように接触し 2 台とも直角に近い角度でそのままストレート横バリケードに激突。2 台の車両は大破し、レッドフラッグが振られ予選中断。レスキュー車両、救急車が出動する大参事となる。直前の計測結果でピット内は喜びに溢れている中でのクラッシュ。何が起きたのか状況を把握するまで少し時間が掛かったのは言うまでもない。チーム内に動揺が走りドライバー高長の体を心配しつつ、メカニックは復旧作業を予測し準備に掛かる。

気持ちの切り替えが重要と監督・マネージャー共に全員を落ち着かせ冷静さを保つ。しかし、クラッシュした #123VITZ がピット前へ運ばれた瞬間、絶望の光景を目にする。助手席のエアバックが開放し、クルマを支える大骨のサイドメンバーが大きく曲がっている。「これはもう走れない」とチーフメカニックが一言。VITZ チーム全員の想いが絶たれた瞬間だった。ドライバー高長の体が無事だった事が唯一の救いだったが、みんなの想いを 1 人で背負っていた彼は落胆し周囲が声を掛ける事が出来ない程だった。VITZ チームが果たせなかった想いは 86 チームに託された。次第に全員気持ちを切り替え 86 に専念していく。



迎えた決勝 10 時。チーム全員の願いをのせ 86 はスタートした。決勝はローリングスタートによるスタート方式となっている。トラブルなく走り出した #123 86。出だしから自分たちのペースで走る事を作戦としており A ドライバーの松井孝允は順調に周回を重ねていった。みんなの夢を背負ったクルマは次第に 2 位→1 位へと階段を上る。ところが開始 2 時間を経過した辺りで、最大のライバル神奈川トヨタチームが怒涛の追い上げをし後方約 7 秒差まで迫る。この状況で引き離せる

程燃料に余裕はなく、あえて 2 位へ順位を落としピットリ後方に着いていく作戦へ変更。しばらくこの状況が続かせその場を凌ぐ予定だったが、予想外の燃料残警告灯の点灯がドライバーより届く。想定より 4 周程早い燃料切れで #123 86 は、やむ終えずピットイン。このままではまずい。僕たちの 2 連覇という夢がどんどん離れていった。諦めた訳じゃない。だが正直絶望だった。このままでは負けてしまう。強すぎるライバルを前にどうして良いのかわからなかった。

しかし、勝負の流れは大きく変わる事となる。残り約 2 時間、他車のクラッシュによりセーフティーカーがコース内へ入り安全が確保されるまでは全車規定速度で走る事になる。想定より速いタイミングだったが #123 86 は緊急ピットイン。給油を済ませ既定の滞在時間（6 分間）でピットリコースへ戻る。ライバルチームは、このタイミングでピットインせずセーフティーカーランが解除されるのを待っていた。この判断がレースの命運を分けることになった。

この時点で、トップとの差は約 3 周。#123 は最終ドライバー松井孝允で後はチェッカーまで走るのみ。一方、神奈川トヨタ #97 は残り 1 回給油をしなければいけない。セーフティーカーラン中に給油を済ませ、ロスタイムを削りコース復帰した #123 86 はゆっくりと燃料を温存しながら再スタートを待つ。再スタート後しばらくして神奈川トヨタがピットイン。この間に #123 86 はセーフティーカーラン中にロスタイムを削れたことにより見事逆転に成功する。しかし、まだ油断を許さない状況。コース復帰した神奈川トヨタは終盤のステイントにも関わらず猛追を開始。こっちのペースは 2 分 10 秒台。これ以上ペースを上げると燃料切れでリタイヤとなってしまう。向こうは 2 分 6 秒台。僕たちには異次元の走りだった。

改めて力の差を感じつつも、状況は #123 86 がレースを掌握していた。見事逆転優勝の達成だった。チーム全員で優勝の喜びと、2 連覇達成を実現でき安堵の表情でレースを終えた。これだからレースは止められない！ 86 で参戦して丸 5 年。常に表彰台に上り 2 連覇達成したチームは NETZ TOYAMA Racing が初めてだった。こうして富士 6 時間の死闘は幕を閉じた。

